

科目名称：	保育の心理学	
担当者名：	柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>保育の専門家として子どもと接する時、そのかわりには「保育者としての意図」があるべきです。目の前の「かわいい」「子どもが好き」を越えて、子どもの様子からその背景を理解しようとしたり、自分の関わりが子どもに与える影響を考えたりできるようになるためには、頭の中に参照できる材料として心理学的知見が必要となります。理論や法則を土台に、具体的なエピソードも交えることで、子どもへの多面的な理解を目指します。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①子どもの発達の特徴や発達段階について知り、具体例と理論を関連づけられるようにする。 ②事例やエピソードから、理解できたことや具体的な援助方法を自分の言葉で説明できるようにする。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)	60		20	20	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士	《経験年数1》 12年
	《内容2》 公認心理師	《経験年数2》 3年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で得た知識同士を組み合わせる複雑な思考ができています	講義で得た知識を適切な理解で使用することができています	不適切な部分はあるが講義で得た知識をある程度使用している	講義で得た知識を使用できず、専門性が乏しい
表現力・説明力	専門知識を活用し、なおかつ平易な表現への言い換えも可能である	身近な出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	教科書的な出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	語彙が不足しており、出来事に対する説明が困難である
学びへの積極性	質問や意見など、講義内で自発的発言が多く認められる	質問や意見など、講義内でたびたび自発的発言が認められる	質問や意見は時々述べられる程度、あるいは聴く姿勢がよい	講義に対して居眠りや私語などがたびたび認められる

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス (保育の心理学とは)	日常的に使用している「発達」「心理学」という言葉が何を意味しているのか調べておく	20分
第2回 子どもの発達①：遺伝と環境	教科書p20～21を読み、発達の影響因である遺伝と環境について理解しておく	20分
第3回 子どもの発達②：初期経験と生涯発達	教科書p30～31などを参考に、なぜ子ども時代の経験が重要視されるのか理解しておく	20分
第4回 社会情動的発達	イヤイヤ期とは何か、なぜそのように反抗するのか、教科書第3章を読んで予習しておく	20分
第5回 身体機能と運動機能 (演習含む)	乳児など言語のない子どもの研究方法について、教科書p62などを参考に予習しておく	20分
第6回 認知の発達	教科書p74～79を予習し、「いないいないばあ」が子どもにはどのような体験か考える	20分
第7回 学習：レスポナント条件づけとオペラント条件づけ	教科書p80～82の学習について予習し、自分の身近な体験から説明できるようにしておく	20分
第8回 中間まとめ	これまでの復習をしておく	90分
第9回 言葉の発達	教科書p90～93をよく読み、初語が出る以前のコミュニケーションについて予習しておく	20分
第10回 発達を支える記憶のしくみ (演習含む)	嫌な記憶が消えにくいのはなぜか、自分なりに説明できるよう調べておく	20分
第11回 子どもの発達と臨床的問題①：「障害」という考え方	「障害」とはどのような状態を意味しているのか、教科書第7章をよく読み理解しておく	20分
第12回 子どもの発達と臨床的問題②：様々な発達障害	「自閉症」「ADHD」について、自分で説明できるよう教科書やネット等で調べておく	20分
第13回 愛着理論	ハーロウのアカゲザル実験について調べ、愛着とはどのような概念か理解しておく	20分
第14回 遊びを通じた社会性の発達	友だちとの遊びやケンカが子どもの社会性発達にとって重要である理由を考えておく	20分
第15回 乳幼児期の学びの過程と特性	「非認知能力」とは何を意味しているのか、説明できるよう調べておく	20分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書を読んだ上で基本的な事項について調べておくことになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的関与（意見や質問、取り組み姿勢など）20%、提出物（毎回の感想など）20%

課題に対するフィードバック

第8回の中間試験は第9回で、期末試験は後期「子ども家庭支援の心理学」第1回でそれぞれ返却予定です。毎回の感想提出に関してもコメントをつけてフィードバックをしますので、授業理解度の参考にしてください。

教科書・参考書

教科書：「保育の心理学（シリーズ知のゆりかご）」 青木紀久代編著 みらい
参考書：参考資料やプリントは適宜授業内で配布・紹介します